

間爲佐々木定綱奉行、以船奉渡湖海之處、延曆寺所司等、相交雜人之中、依現狼籍、定綱郎從、相從相答間、不圖起鬪亂及殺害略○下

〔吾妻鏡十五〕建久六年三月四日、己丑將軍家源朝出江州鏡驛前、羈路鞍馬給、爰台嶺衆徒等、降于勢多橋邊、奉見之、頗可謂橋前途、歟、將軍家安御駕橋東、可有禮否、思召煩、頃之、召小鹿島橋次公業、遣衆徒中、被仰子細矣、公業跪衆徒前、申云、鎌倉將軍爲東大寺供養結緣、上洛之處、各群集、依何事哉、尤恐思給侍、但武將之法、於此所無、下馬之禮、仍乍乘、可罷通、敢莫被答之者、不聞食返答之、以前、令打過給、至衆徒前、取直弓、聊氣色、于時各平伏云々、

〔承久軍物語四〕六月承久三年十二月、海道の大將さがみのかみ時房、せたのはしちかくをしよせ、野路におんをとりたまふ、はやりをの兵ども河ばたにをしよせみれば、橋いた二けん引おとし、かいたてかきて山田次郎を大將として、山法し少々ちんをとりたり、さがみのかみの手のものはしみの太郎、さゞめの二郎、はや川三郎以下、はしづめにをしよせてた、かひけるが、かたきにてしげくいしらまされて引えりぞく、二ばんに江戸の八郎、あだちの三郎、さぬきの太郎三人、けたをわたりてむかひにつかんとしけるが、あまりにつよくいられて二人は引えりぞく、あだち三郎はよろひよかりければ、まばしさ、へてゐたりしかども、てしげくいほどに、これもこらへかねて引えりぞく、三ばんにむら山とう八人、けたをわたりけるが、それもいしらまされて引えりぞく、四ばんに廿人つれたる兵はしげたをわたりて、かいたてのきはまでせめよせたり、かたきさしづめ引つめいけれども、物ともせず、その中にくまがへ平内左衛門、くめのさこん、いはせのさこん、同五郎兵へ、こえづかの平太郎、よしみの十郎、まそくの小次郎、ひろた小次郎、たちをぬひて三のかいたてをきりやぶつて、まころをかたぶけせめよするを見て、山法し一たゞかひもせず、さつと引てのきにける、